

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目－国際科目	担当教員	入澤 雅典、テナント			
授業科目	異文化体験 I					
英 訳	intercultural communication I					
配当年次	1年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 現在の国際化社会において、海外の文化に親しみそれを体験することは必要不可欠なことである。さらに、異なった文化を体験することで日本の良いところや自分の学ぶべきことを会得することができる場合がある。外から日本をそして自分を見つめてみることを経験するための基本的な知識や技能を身につける。						
【授業の目的】 海外渡航に必要な知識や英会話を習得することを目的とする						
【到達目標】 いつでも気軽に海外渡航が出来る能力と知識を習得する。						
【準備学習(予習・復習)】 インターネットを使って、授業で必要な事を、授業前と授業後に調査・確認をする。						
【授業計画】 第 1回 オリエンテーション 第 2回 旅行英会話 1 第 3回 海外渡航の手続き 1 (パスポートの申請方法 ビザについて) 第 4回 旅行英会話 2 第 5回 海外渡航の手続き 2 (航空券の種類、空港での手続き 出国・入国管理局) 第 6回 旅行英会話 3 第 7回 海外渡航の手続き 3 (海外の通貨、現地での移動手段) 第 8回 旅行英会話 4 第 9回 地域の文化・慣習 第 10回 旅行英会話 5 第 11回 海外での諸注意 治安・テロその他 第 12回 旅行計画作成 第 13回 研修地域の文化学習 第 14回 英会話のまとめと最終テスト 第 15回 渡航準備のまとめと最終テスト						
【教科書】 ビデオ・インターネットなどを利用するので特に指定しない。						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 小テスト50%、最終テスト30%、平常点20%で評価する。						
【メッセージ】 学生時代の早いうちに、海外へ飛び出そう！						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目－国際科目	担当教員	入澤 雅典			
授業科目	異文化体験Ⅱ					
英 訳	intercultural communication Ⅱ					
配当年次	1年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 現在の国際化社会において、海外の文化に親しみそれを体験することは必要不可欠なことである。さらに、異なった文化を体験することで日本の良いところや自分の学ぶべきことを会得することができる場合がある。外から日本をそして自分を見つめてみることを経験する。						
【授業の目的】 異文化体験Ⅰを履修した学生が、海外研修を行い、実際に異文化を体験することを目的とする。						
【到達目標】 自分で渡航計画を作成し、異文化を体験する。						
【準備学習(予習・復習)】 インターネットを使って渡航先や手続きについて、授業前に、そして、授業後に調査等をする。						
【授業計画】 第 1回 オリエンテーション 授業の概要の説明 担当者企画ツアーの説明 等 第 2回 詳細説明 渡航計画の提出 第 3回 詳細説明 研修報告書の提出方法 第 4回～第14回 海外研修 第15回 研修報告提出、まとめ						
【教科書】 ビデオ・インターネットなどを利用するので特に指定しない。						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 授業への取り組み (80%)、レポート提出 (20%)						
【メッセージ】 学生時代の早いうちに、海外へ飛び出そう！						

区分	総合教育センター科目群 教養教育科目－国際科目	担当教員	桑山 尚司			
授業科目	国際技術協力 I					
英 訳	Theory and Practice of International Development and Cooperation I					
配当年次	2年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 本授業は、「国際技術協力」に係る二つの活動（①先進国と開発途上国間の格差是正のための支援活動、②グローバル化に対応する企業活動）について、協働で事例研究を行う。受講者は、授業中に提示された課題について、グループワークやディスカッションをとおして考察を深め、最終的にはプロジェクト案の作成とプレゼンテーションを行うことが求められる。						
【授業の目的】 受講者が、①途上国の貧困問題や②企業のグローバル化という課題に対して、問題解決に取り組むための基礎的な知識、スキル、態度を身につけること。						
【到達目標】 ・ワークショップ形式の学習により、①途上国における「貧困の悪循環」や②グローバルな企業の活動における「マネジメント」についての基礎的な理解をえる。 ・KJ法を活用したグループワークやディスカッションをとおして、①や②に係る問題分析や目標設定の基礎的なスキルを身につける。 ・各受講者が自らの考えを表現し、グループ内で交流し、プレゼンテーションを行うことにより、①や②の課題に対して協働的に取り組む態度を身につける。						
【準備学習(予習・復習)】 ・TVや新聞等のマスメディアから流れる当該分野の情報に眼を配り、自分なりの意見や疑問をもっておく。 ・授業者側から提示される要点、課題に対する自分なりの意見や疑問、他の受講者の意見から学んだことや疑問は、ノートに整理して、事前と事後に考察を深めること。						
【授業計画】 第 1 回 ワークショップ①「貧困とは何か」 第 2 回 ワークショップ②「貧困と国際協力のつながり」 第 3 回 国際協力の具体的な取り組み事例 第 4 回 ワークショップ「ガクイン村の貧困問題をかんがえる」 第 5 回 問題分析の手法とプレゼンテーション① 第 6 回 問題分析の手法とプレゼンテーション② 第 7 回 開発論：課題分析のための複眼的思考に向けて 第 8 回 ワークショップ「国際化とは何か」 第 9 回 企業活動のグローバル化に係る具体的な取り組み事例 第 10 回 ワークショップ③「企業は国際化にどのように取り組んできたか」 第 11 回 問題分析の手法とプレゼンテーション③ 第 12 回 ワークショップ「課題解決に向けたプロジェクト案作成」① 第 13 回 ワークショップ「課題解決に向けたプロジェクト案作成」② 第 14 回 ワークショップ「課題解決に向けたプロジェクト案作成」③ 第 15 回 各グループによるプロジェクト案発表、まとめと振り返り						
【教科書】 教材や資料は、授業時に配布する。						
【参考書】 授業時にリストを配布する。						
【成績評価基準】 レポート (50%)、授業中の課題への取り組み (50%) で評価する。						
【メッセージ】 国際技術協力に関する専門的知識を前提としませんが、これまでの知識や経験をもとにして、自分なりの意見をもつこと・それを表現すること・他の参加者の意見を聴くこと・協働しながらよりよいアイデアを探究することを心がけてください。						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目－国際科目	担当教員	桑山 尚司			
授業科目	国際技術協力Ⅱ					
英 訳	Theory and Practice of International Development and Cooperation Ⅱ					
配当年次	2年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 本授業では、国外及び国内における技術協力に携わるボランティアの活動について、協働で事例研究を行う。受講者は、授業中に提示された課題について、グループワークやディスカッションをとおしてボランティアに対する理解と考察を深めることが求められる。						
【授業の目的】 受講者が、ボランティアの理念やその国内外における活動（①青年海外協力隊や国際NGOにおける国際的なボランティア活動、②自然災害発生時等における国内でのボランティア活動）についての基礎的な理解を深め、ボランティアに係る課題を自らの生活につながるものとして捉えられるようになること。						
【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ形式の学習により、①途上国の実態を踏まえた国際的なボランティア活動、②災害発生時の被災者の実態を踏まえた国内のボランティア活動に対する基礎的な理解をえる。 ・KJ法を活用したグループワークやディスカッションをとおして、①や②に係る問題分析の基礎的なスキルを身につける。 ・各受講者が自らの考えを表現し、グループ内で交流し、プレゼンテーションを行うことにより、①や②の課題に対して協働的に取り組む態度や倫理観を身につける。 						
【準備学習(予習・復習)】 <ul style="list-style-type: none"> ・TVや新聞等のマスメディアから流れる当該分野の情報に眼を配り、自分なりの意見や疑問をもっておく。 ・授業者側から提示される要点、課題に対する自分なりの意見や疑問、他の受講者の意見から学んだことや疑問は、ノートに整理して、事前と事後に考察を深めること。 						
【授業計画】 第 1回 ワークショップ①「ボランティアとは何か」 第 2回 ボランティアの歴史と基本的な理念 第 3回 ワークショップ②「青年海外協力隊によるボランティア活動について考える」 第 4回 問題分析の手法とプレゼンテーション① 第 5回 問題分析の手法とプレゼンテーション② 第 6回 国際機関及び日本による国際技術協力とボランティア活動 第 7回 ワークショップ③「国内での災害ボランティア活動について考える」 第 8回 日本における災害ボランティアの現状 第 9回 ワークショップ④「震災ボランティア活動について考えるⅠ」 第10回 問題分析の手法とプレゼンテーション③ 第11回 ワークショップ⑤「震災ボランティア活動について考えるⅡ」 第12回 問題分析の手法とプレゼンテーション④ 第13回 ワークショップ⑥「ボランティアと倫理」 第14回 問題分析の手法とプレゼンテーション⑤ 第15回 各グループによる発表のまとめと振り返り						
【教科書】 教材や資料は、授業時に配布する。						
【参考書】 授業時にリストを配布する。						
【成績評価基準】 レポート提出（50%）、授業中の課題への取り組み（50%）で評価する。						
【メッセージ】 ボランティアとは、自発的な活動であり、自らの成長にもつながりうるものです。これまでの知識や経験をもとにして、自分なりの意見をもつこと・それを表現すること・他の参加者の意見を聴くこと・協働しながらよりよいアイデアを探究することを心がけてください。						